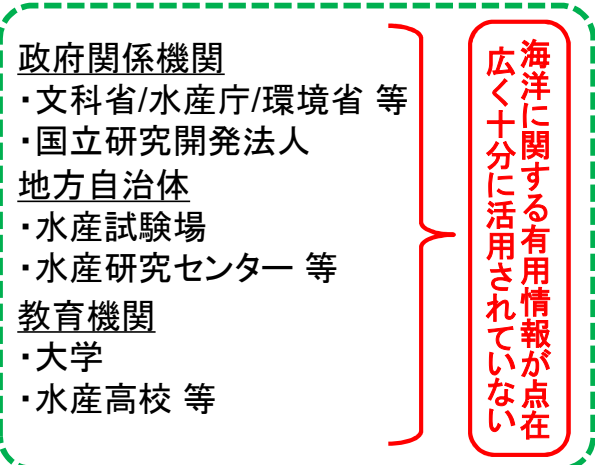


海洋生物情報の量的・動的な把握・解析・予測システムの構築 〔府省連携（海洋本部・文科・水産・環境等）〕

- 地球温暖化、海洋酸性化、貧酸素化や、その他人間活動に起因する海洋環境劣化（生物資源の乱獲やプラスチックゴミ等による汚染等）など、**海洋生物資源の持続可能な活用とそのガバナンスについては、国際的議論（※）が本格化**
※国連でBBNJの議論が本格的に開始、本年G7サミット（ドイツ）の主要課題
- 我が国の食料安全保障上も重要な上記取組を、海洋国家日本として主導するためには、**海洋の四次元的観測の強化と海洋の統合的な理解等が必要**
- このため、調査海域の拡充や次世代観測技術の確立により取得情報を抜本的に拡充するとともに、**海洋生物に関する情報を集約しながら、量的・動的に把握、解析・予測し、これら様々なデータ・知見を漁業管理や環境保護等の取組に活用することが重要**

海洋情報の量的・動的な把握

●各機関が様々な目的で事業を推進



●次世代観測技術等の獲得・人材育成

- 開発高度化が必要な技術
- ・データ統合技術／データ可視化技術
 - ・海中センサー・ロボット技術
- 基盤となるプラットフォーム
- ・スーパーコンピュータ
 - ・調査船／飼育等の実験施設
 - ・漁船操業データの活用
- 人材育成
- ・自然科学と社会の融合
 - ・インターンシップの充実

◎海洋の「健康状態」のリアルタイム把握

◎予測モデルによる変動予測技術の高度化

科学的知見に基づき国際的議論を我が国が主導！！

◎観測システムパッケージの標準化と国際展開 ◎国際的な管理基準づくり

◎新たな国際観測ネットワークのあり方を提案

海洋生物資源の持続可能な活用の実現へ（地球環境変動に適応した漁業管理・環境保護等）